

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

1. 建物概要					
建物名称	ウオロク中野山店				
建設地	東区 西野字切添1298の一部 外				
用途地域	準工業地域				
建物用途	物販店				
竣工年	2013年11月 予定				
敷地面積	8,118.87 m ²				
建築面積	3,290.08 m ²				
延床面積	2,996.13 m ²				
階数	地上1F				
構造	S造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2013年4月17日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{46}{37} = 1.2$		
S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★☆☆ B: ★★☆☆☆ C: ★☆☆☆☆					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 3.2		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 2.8		維持管理	Q2.1.3	3.5
			更新性	Q2.3.3	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 3.0		耐震・免震	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	2.6
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.5		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
			建物の熱負荷抑制	LR1.1	4.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 3.7		自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
			節水	LR2.1.1	3.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.0		再利用可能性向上	LR2.2.6	5.0
			生物環境の保全・創出	Q3.1	1.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 2.5		敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
			まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	2.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。 本計画では、床の段差をなくしたり、店内通路幅を広めに確保するなどバリアフリーについて配慮を行っています。 また、オール電化にすることにより温暖化対策にも配慮を行っています。					

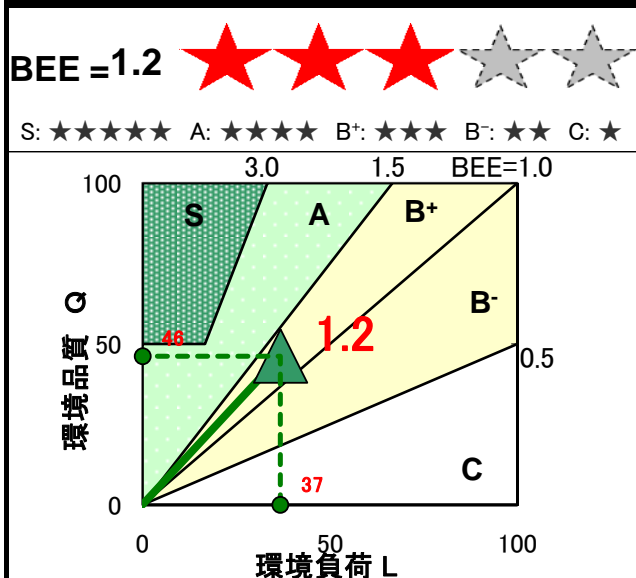
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE®新潟

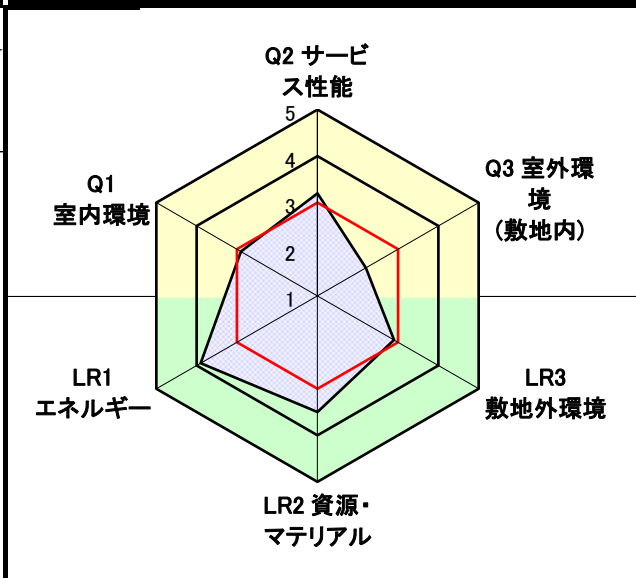
評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

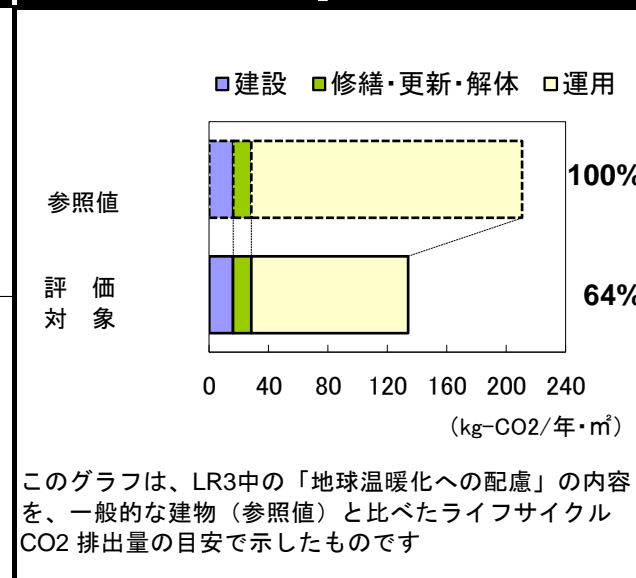
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



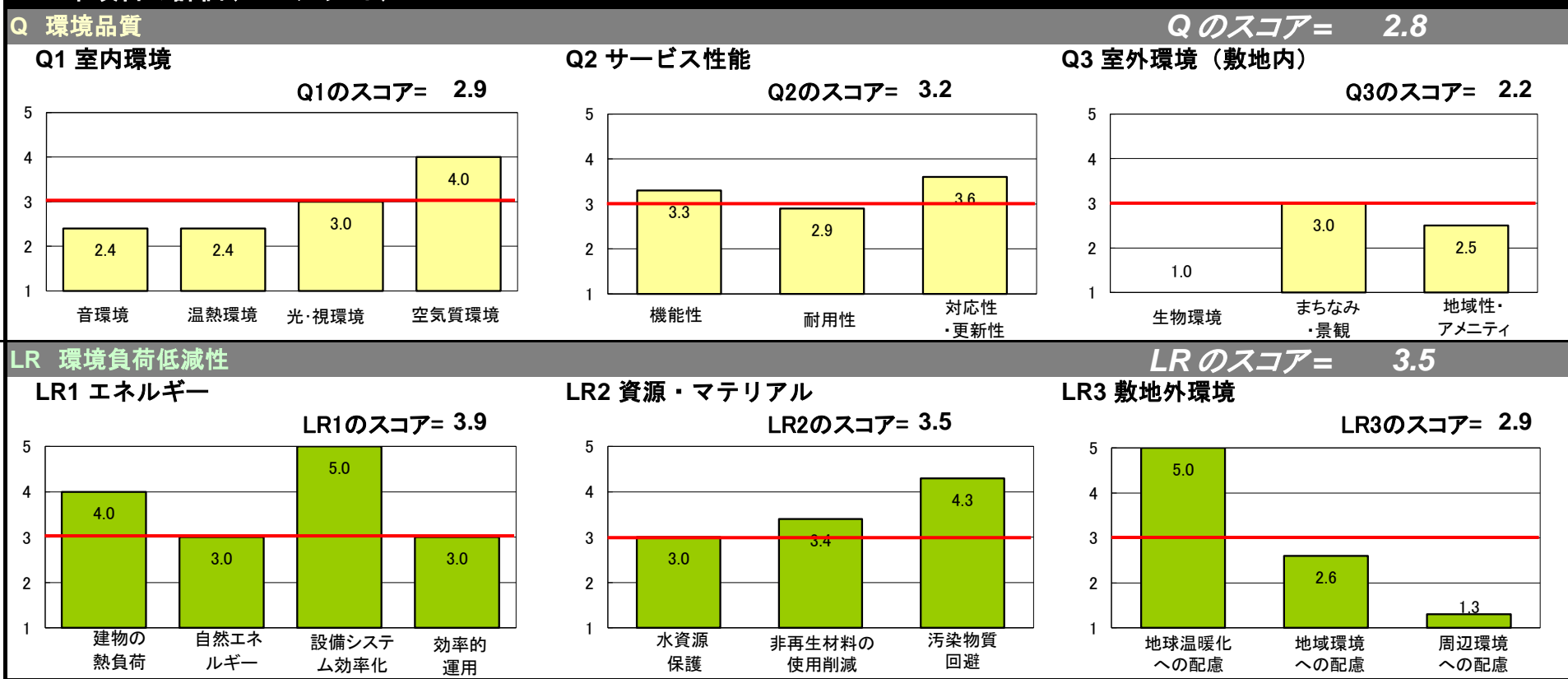
2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 建物の高さを抑え、周辺住宅からできるだけ離して配置した。周辺交通を考慮し利用しやすい駐車場計画とした。騒音発生機器は、住環境を考慮してできるだけ住宅から離して設置した。	その他
Q1 室内環境 来客者に対し、快適な室内環境となるよう照明計画、空調設備のゾーニング、建築基準法による換気設備等の配置に配慮した。ただし、商品の鮮度を害さないよう調整している。	Q2 サービス性能 来客者の回遊性を考慮し、通路等空間を確保するよう配慮した。(身障者を含む)
Q3 室外環境 (敷地内) 夜間の駐車場照明において、住宅側に光が差し込まないように配慮した。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない材料の使用に注意を払った。
LR1 エネルギー 夏場の日照、冬場の風向き等を考慮し建物の配置を行い、運営に係るエネルギー全般の抑制に配慮した。	LR3 敷地外環境 オール電化にすることにより、はだか火を使用しないこととした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される